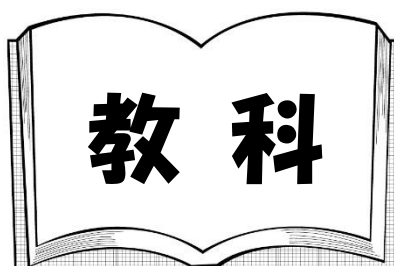


平成30年度 全国学力・学習状況調査
— 鈴鹿市の教科に関する調査結果概要 —



平成30年10月

鈴鹿市教育委員会事務局教育指導課

目次

1	調査の目的	．．．．．P 2
2	調査対象・実施学校・実施児童生徒数（本市）	．．．．．P 2
3	調査日時・内容	．．．．．P 2
4	調査結果の概要	
	（1） 平均正答率（本年度）	．．．．．P 3
	（2） 経年変化	
	① 平均正答率〔全国（公立）・県・鈴鹿市〕 及び全国（公立）と鈴鹿市との差	．．．．．P 3
	② B問題記述式問題における全国（公立）と 鈴鹿市との平均無解答率の差	．．．．．P 8
	③ 全国（公立）の平均正答率を上回った教科数の経年変化	．．．．．P 9
5	各教科の調査結果	
	（1） 小学校 国語	．．．．．P 1 0
	（2） 小学校 算数	．．．．．P 1 2
	（3） 小学校 理科	．．．．．P 1 4
	（4） 中学校 国語	．．．．．P 1 5
	（5） 中学校 数学	．．．．．P 1 7
	（6） 中学校 理科	．．．．．P 1 9
6	各教科に関する質問紙調査の結果	
	（1） 小学校国語に関する質問紙調査の結果	．．．．．P 2 0
	（2） 小学校算数に関する質問紙調査の結果	．．．．．P 2 1
	（3） 小学校理科に関する質問紙調査の結果	．．．．．P 2 3
	（4） 中学校国語に関する質問紙調査の結果	．．．．．P 2 6
	（5） 中学校数学に関する質問紙調査の結果	．．．．．P 2 7
	（6） 中学校理科に関する質問紙調査の結果	．．．．．P 2 9

1 調査の目的

全国学力・学習状況調査は、『義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する』ことを目的として、文部科学省が、学校の設置管理者である都道府県教育委員会、市町村教育委員会、学校法人、国立大学法人、公立大学法人等の協力を得て実施するものです。

2 調査対象・実施学校・実施児童生徒数（本市）

調査対象	調査（教科） 実施校	実施児童生徒数				
		国語 A	国語 B	算数 （数学） A	算数 （数学） B	理科
小学校 6年生	30校	1,927人	1,926人	1,927人	1,926人	1,927人
中学校 3年生	10校	1,829人	1,832人	1,832人	1,831人	1,838人

3 調査日時・内容

<調査日時> 平成30年4月17日（火）

<調査内容>

◇ 教科に関する調査（国語，算数・数学，理科）

国語 A，算数 A・数学 A	国語 B，算数 B・数学 B	理科
主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題	主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に出題
身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などを中心とした出題	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容を中心とした出題	

◇ 質問紙調査

児童生徒に対する質問紙調査	学校に対する質問紙調査
学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面等に関する質問紙調査	学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査

4 調査結果の概要

(1) 平均正答率 (本年度)

- 小学校は, 国語 A・算数 AB で三重県と同値であった。(表 1)
- 小学校・中学校ともに全ての教科において, 全国平均を下回った。(表 1)(表 2)

表 1 平成 30 年度 平均正答率 (小 6) (%)

小6	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
鈴鹿市	70	53	63	50	58
三重県(公立)	70	54	63	50	59
全国(公立)	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3

表 2 平成 30 年度 平均正答率 (中 3) (%)

中3	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
鈴鹿市	74	57	65	43	65
三重県(公立)	75	60	67	46	66
全国(公立)	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1

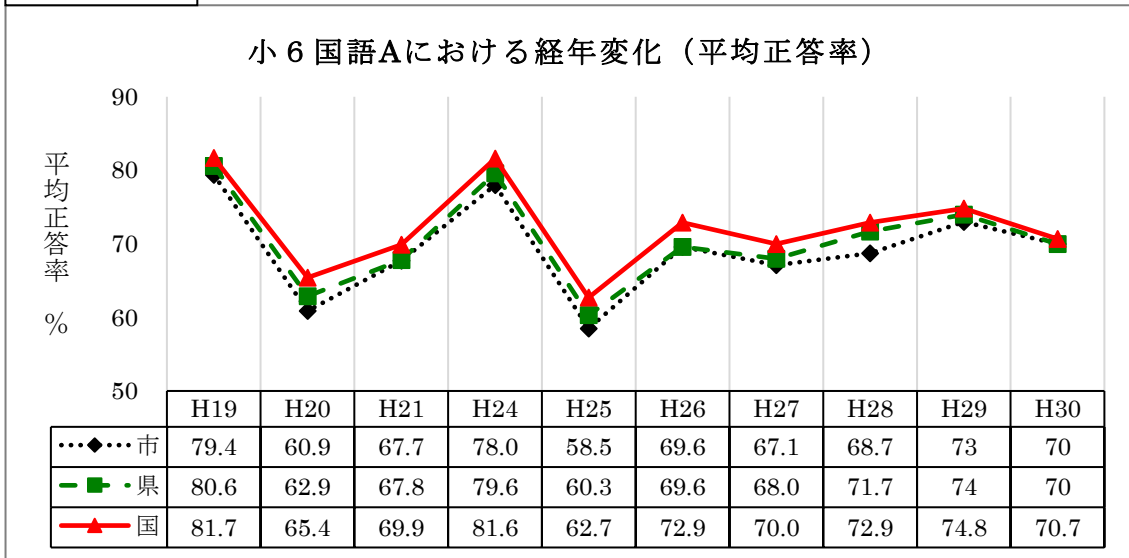
(2) 経年変化

①平均正答率〔全国(公立)・県・鈴鹿市〕及び全国(公立)と鈴鹿市との差

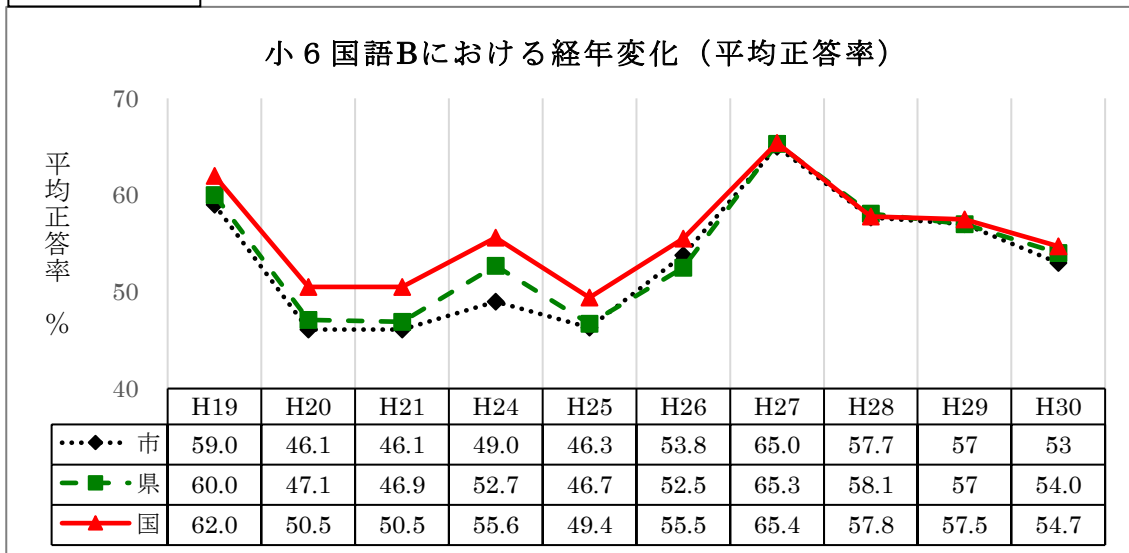
- 小学校では昨年度の結果(理科は H27 年)と比較して, 5教科中 4教科で全国との差が縮まっています。特に「国語 A」「算数 A」「理科」は, 平成 19 年度の学力調査開始以来, 国との差が最も縮まりました。
- 中学校では学力調査開始以来, 「数学 A」「理科」で全国との差が最も縮まりました。
- 小中学校の全ての教科において, 全国(公立)の平均正答率を越えていません。
- 小学校においては, 昨年度と比較して, 5教科中 1教科(国語 B)で全国との差が開く結果となりました。
- 中学校では, 昨年度と比較して, 5教科中 3教科(国語 AB, 数学 B)で全国との差が開く結果となりました。

※平成 22 年度, 23 年度は調査が実施されず。

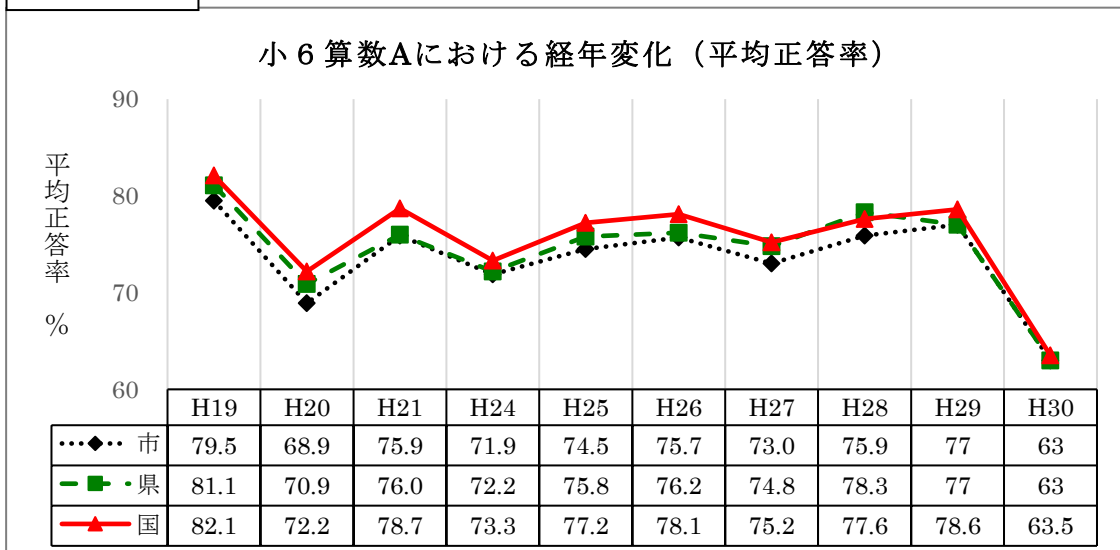
グラフ 1



グラフ 2

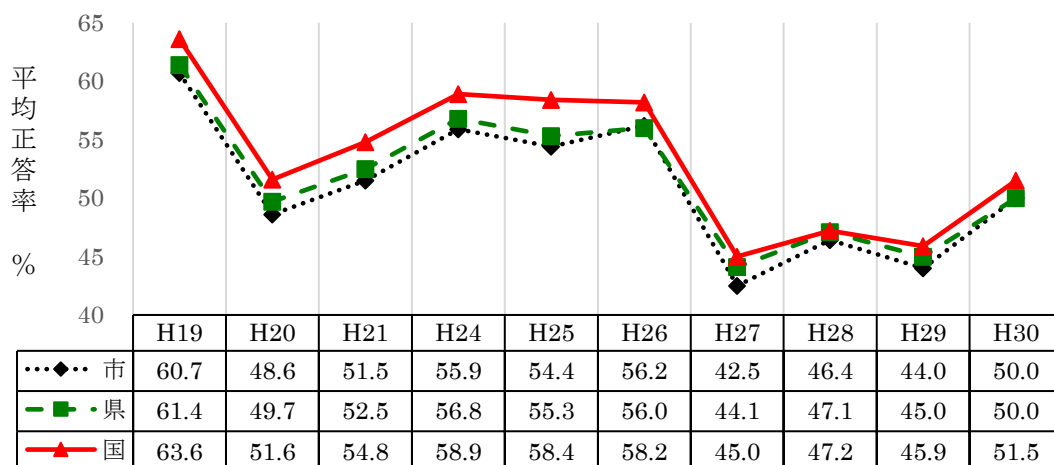


グラフ 3



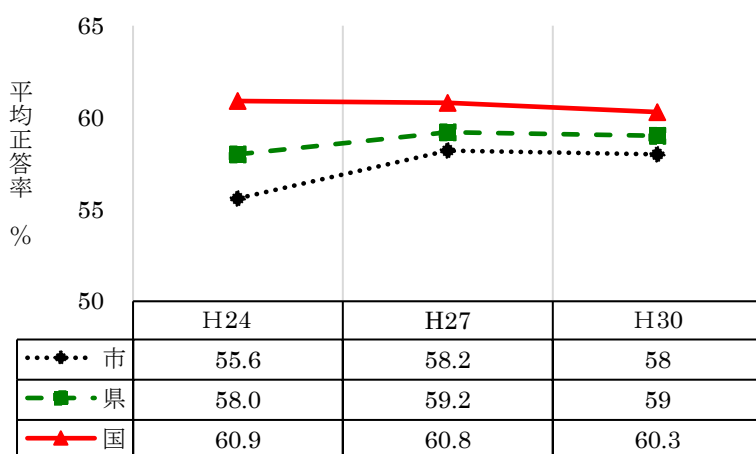
グラフ 4

小6算数Bにおける経年変化（平均正答率）



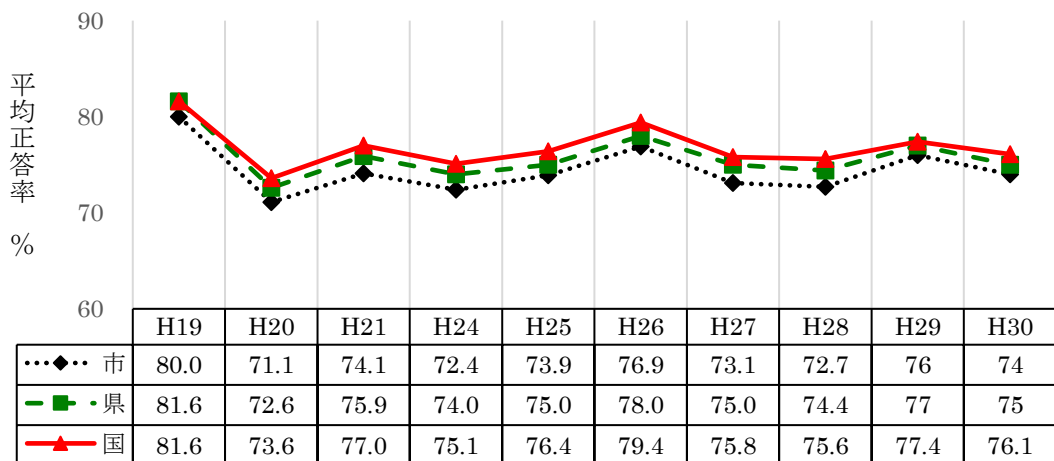
グラフ 5

小6理科における経年変化（平均正答率）

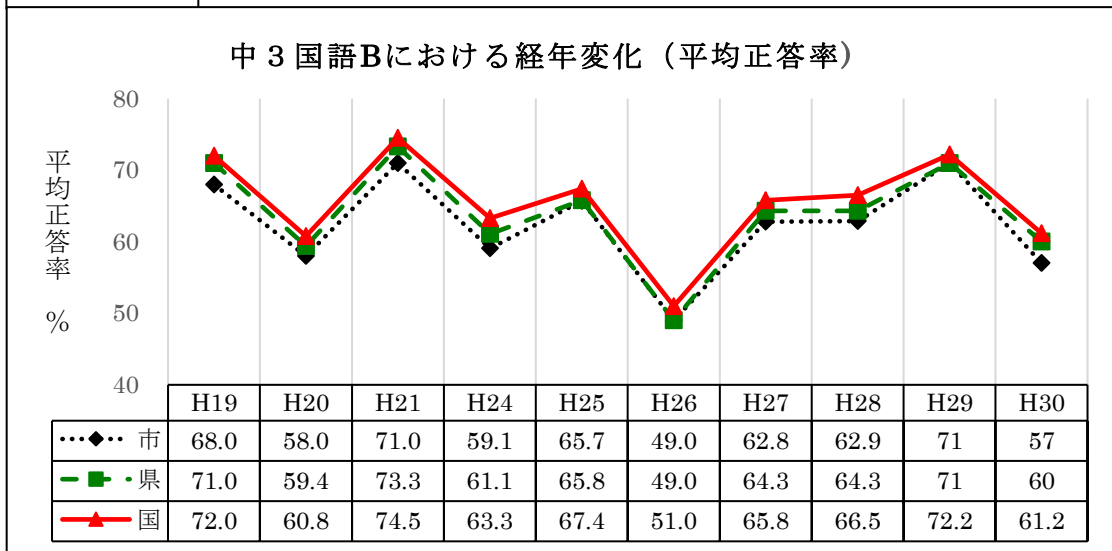


グラフ 6

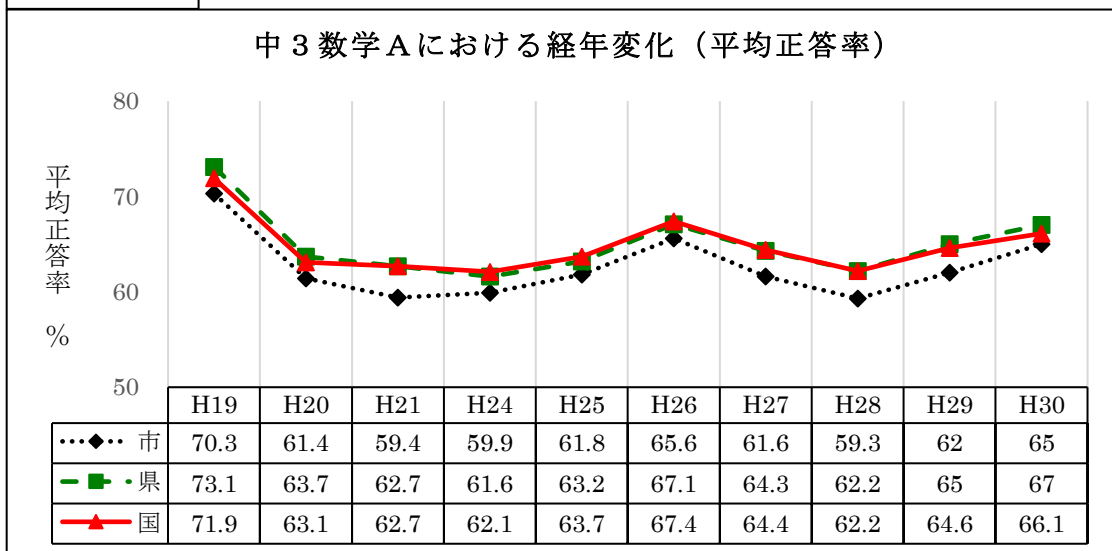
中3国語Aにおける経年変化（平均正答率）



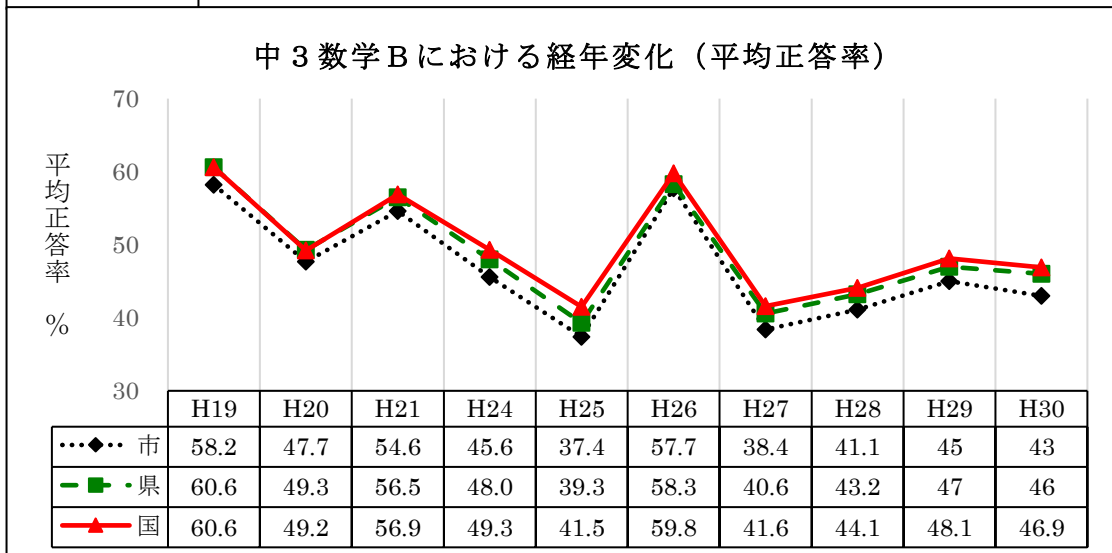
グラフ 7



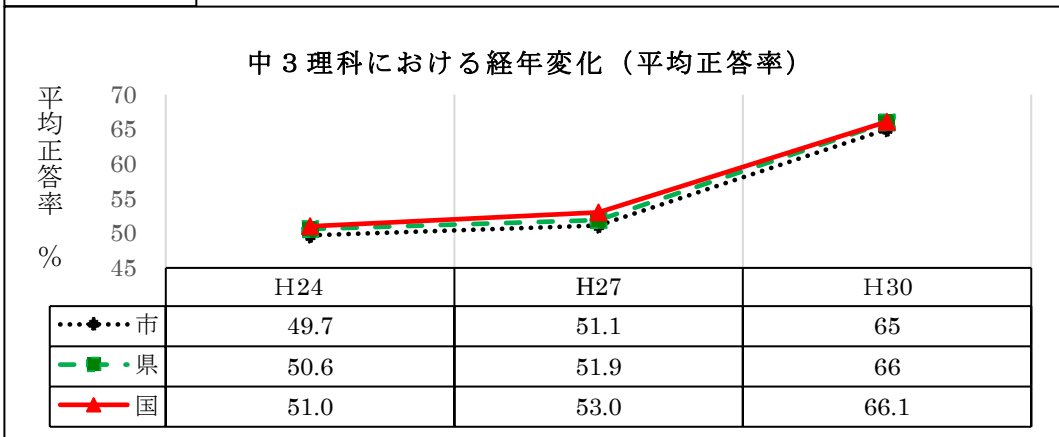
グラフ 8



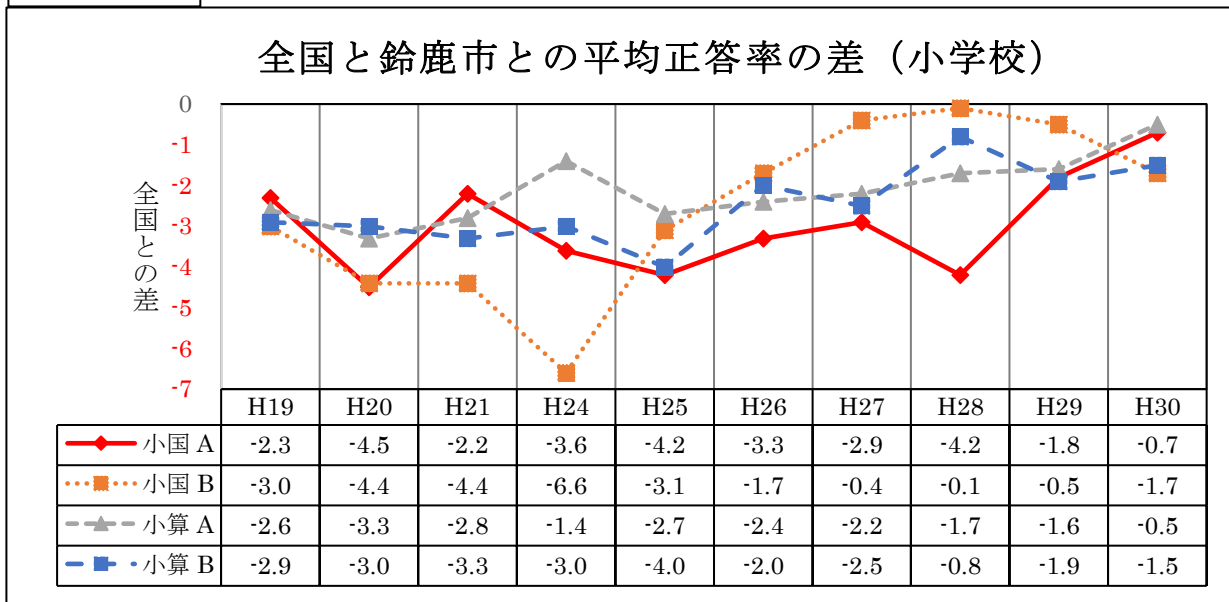
グラフ 9



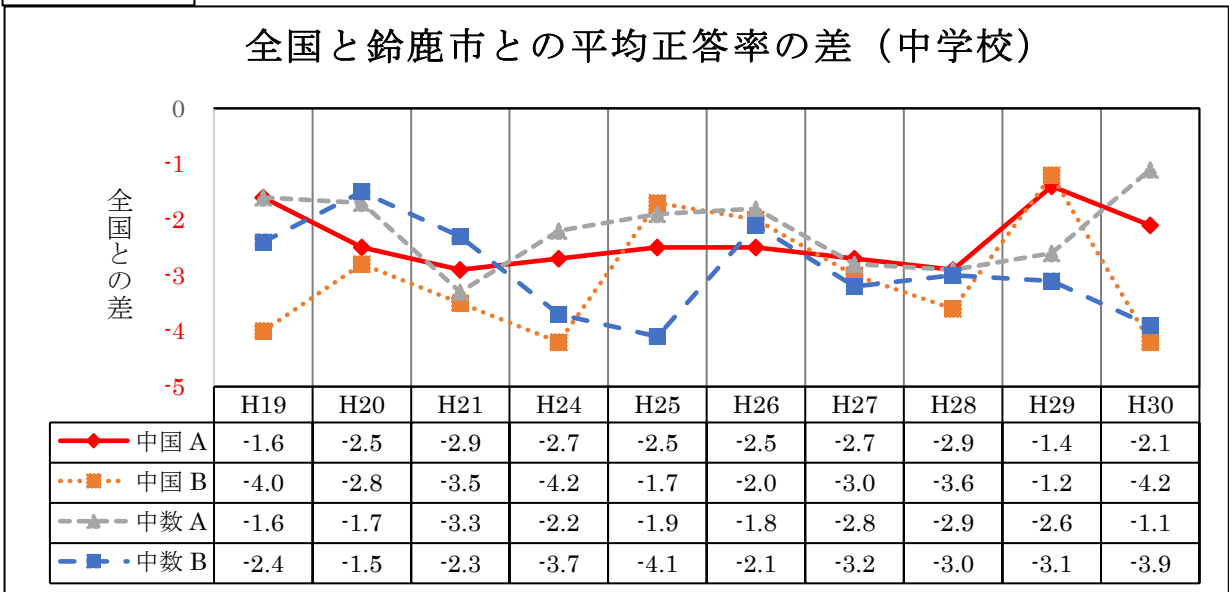
グラフ 10



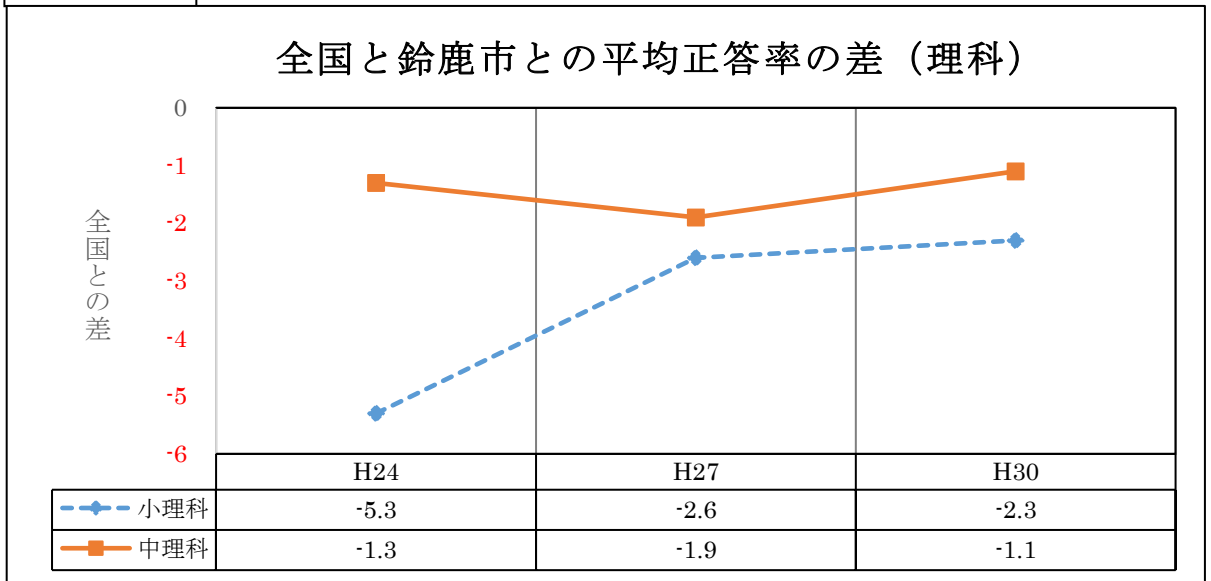
グラフ 11



グラフ 12



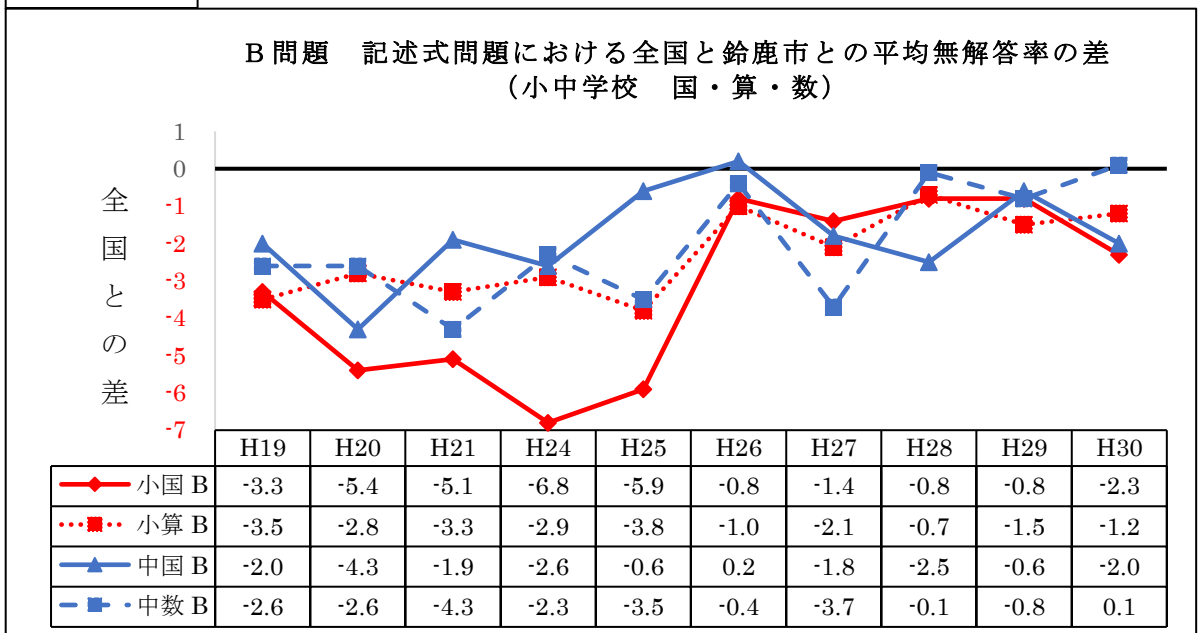
グラフ 13



② B問題記述式問題における全国（公立）と鈴鹿市との平均無解答率の差

- 中学校数学 B については、調査開始以来、初めて全国平均値を越えた。
- 小中学校共に、国語の差が開いている。

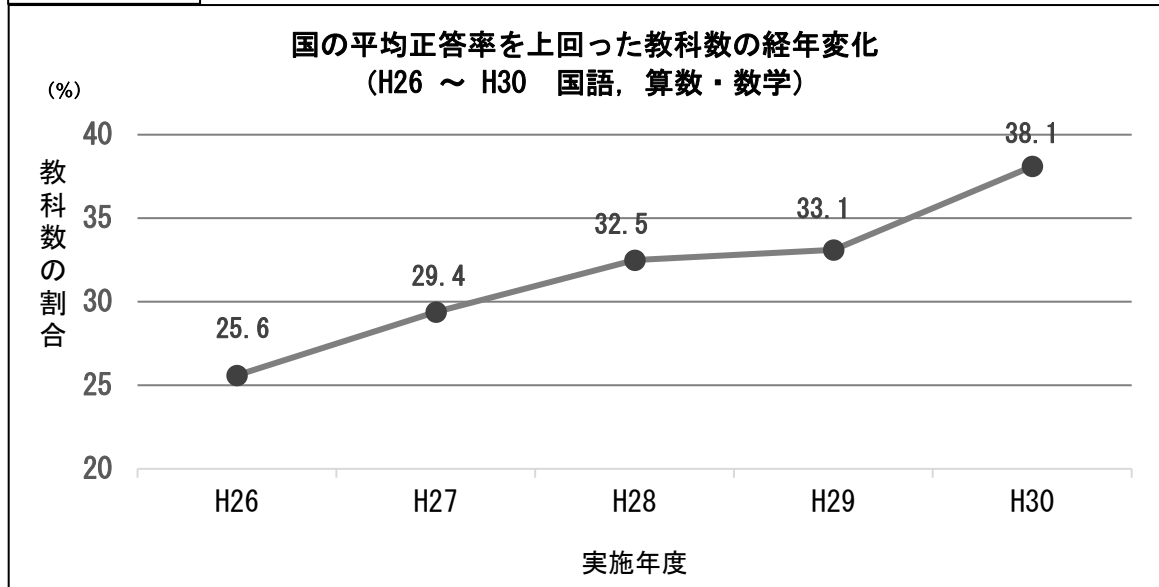
グラフ 14



③ 全国（公立）の平均正答率を上回った教科数の経年変化

○ 年々、国の平均正答率を上回った教科数が増加してきている。特に、今年度は、伸び率が高かった。

グラフ 15



※市内小中学校の各校において、平均を越えた教科総数を基に算出

5

各教科の調査結果

(1) 小学校 国語

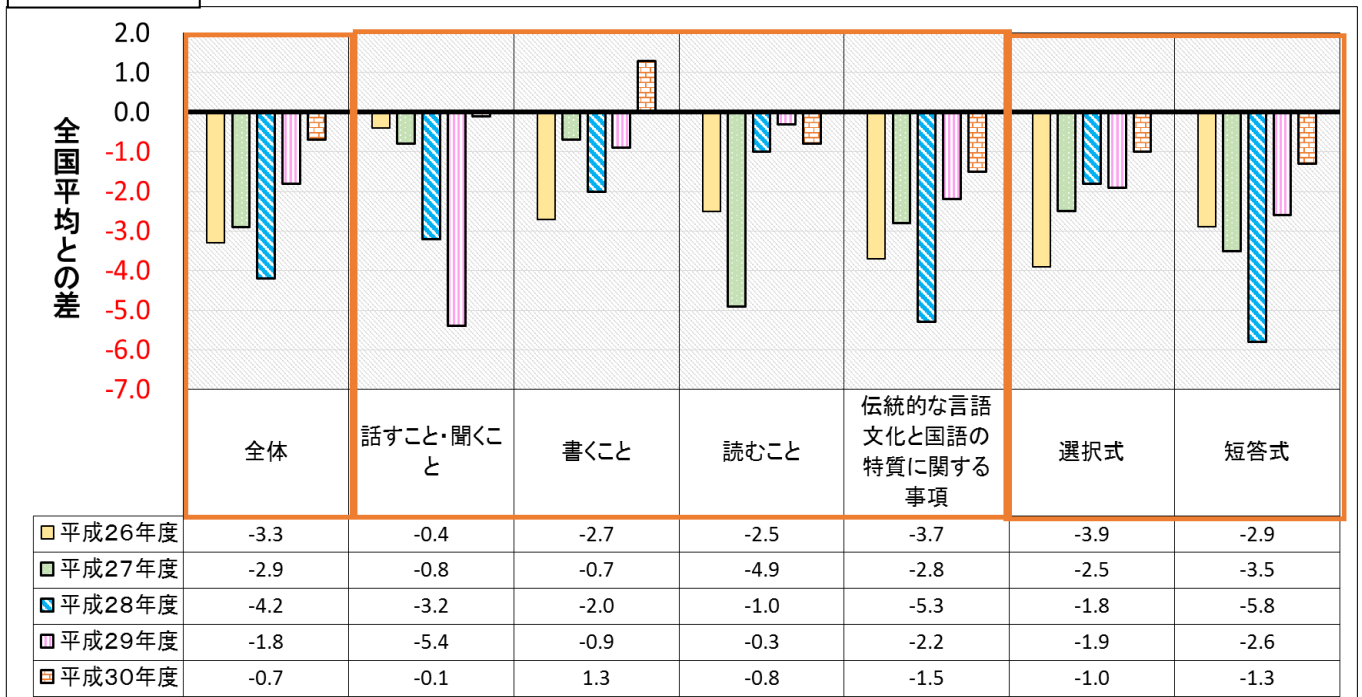
<A問題> (表3) (グラフ16) ※全国平均との比較について

- 全ての領域で改善傾向にある。
- 「書くこと」については、全国平均値を1.3ポイント越えた。
- 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に関しては、改善傾向であるものの、比較的全国との差が大きい。

表3

小学校国語A	平成26年度			平成27年度			平成28年度			平成29年度			平成30年度			
	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	
全体	69.6	72.9	-3.3	67.1	70.0	-2.9	68.7	72.9	-4.2	73.0	74.8	-1.8	70.0	70.7	-0.7	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	72.0	72.4	-0.4	52.2	53.0	-0.8	76.0	79.2	-3.2	63.8	69.2	-5.4	90.7	90.8	-0.1
	書くこと	69.5	72.2	-2.7	85.3	86.0	-0.7	70.8	72.8	-2.0	59.7	60.6	-0.9	75.1	73.8	1.3
	読むこと	66.0	68.5	-2.5	50.3	55.2	-4.9	77.5	78.5	-1.0	69.9	70.2	-0.3	73.2	74.0	-0.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	70.0	73.7	-3.7	74.4	77.2	-2.8	65.8	71.1	-5.3	75.8	78.0	-2.2	65.5	67.0	-1.5
問題形式	選択式	62.7	66.6	-3.9	63.9	66.4	-2.5	75.4	77.2	-1.8	69.8	71.7	-1.9	72.9	73.9	-1.0
	短答式	75.6	78.5	-2.9	70.2	73.7	-3.5	64.2	70.0	-5.8	76.8	79.4	-2.6	34.2	35.5	-1.3
	記述式															

グラフ 16



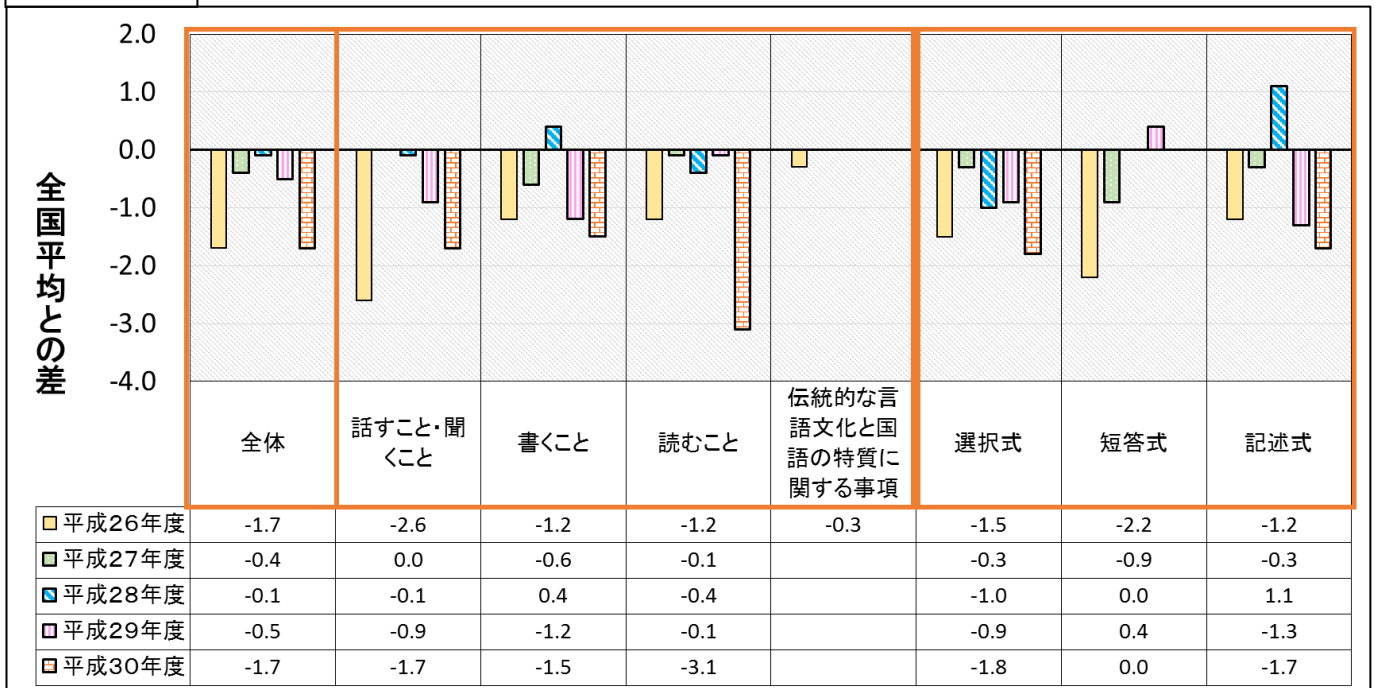
<B問題> (表4) (グラフ17) ※全国平均との比較について

- 全ての領域で下降傾向にある。
- 記述式、選択式のどちらも、この5年間で最も国との差が広がっている。

表4

小学校国語B		平成26年度			平成27年度			平成28年度			平成29年度			平成30年度		
		鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差
学習指導要領の領域等	全体	53.8	55.5	-1.7	65.0	65.4	-0.4	57.7	57.8	-0.1	57.0	57.5	-0.5	53.0	54.7	-1.7
	話すこと・聞くこと	48.6	51.2	-2.6	60.5	61.1	-0.6	51.0	51.1	-0.1	64.0	64.9	-0.9	62.9	64.6	-1.7
	書くこと	33.2	34.4	-1.2	60.5	61.1	-0.6	53.8	53.4	0.4	52.2	53.4	-1.2	44.1	45.6	-1.5
	読むこと	56.1	57.3	-1.2	68.0	68.1	-0.1	68.9	69.3	-0.4	49.1	49.2	-0.1	47.7	50.8	-3.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	69.5	69.8	-0.3												
問題形式	選択式	60.6	62.1	-1.5	68.3	68.6	-0.3	58.9	59.9	-1.0	63.7	64.6	-0.9	65.8	67.6	-1.8
	短答式	65.5	67.7	-2.2	79.9	80.8	-0.9				69.6	69.2	0.4			
	記述式	33.2	34.4	-1.2	55.1	55.4	-0.3	55.8	54.7	1.1	40.4	41.7	-1.3	31.5	33.2	-1.7

グラフ 17



(2) 小学校 算数

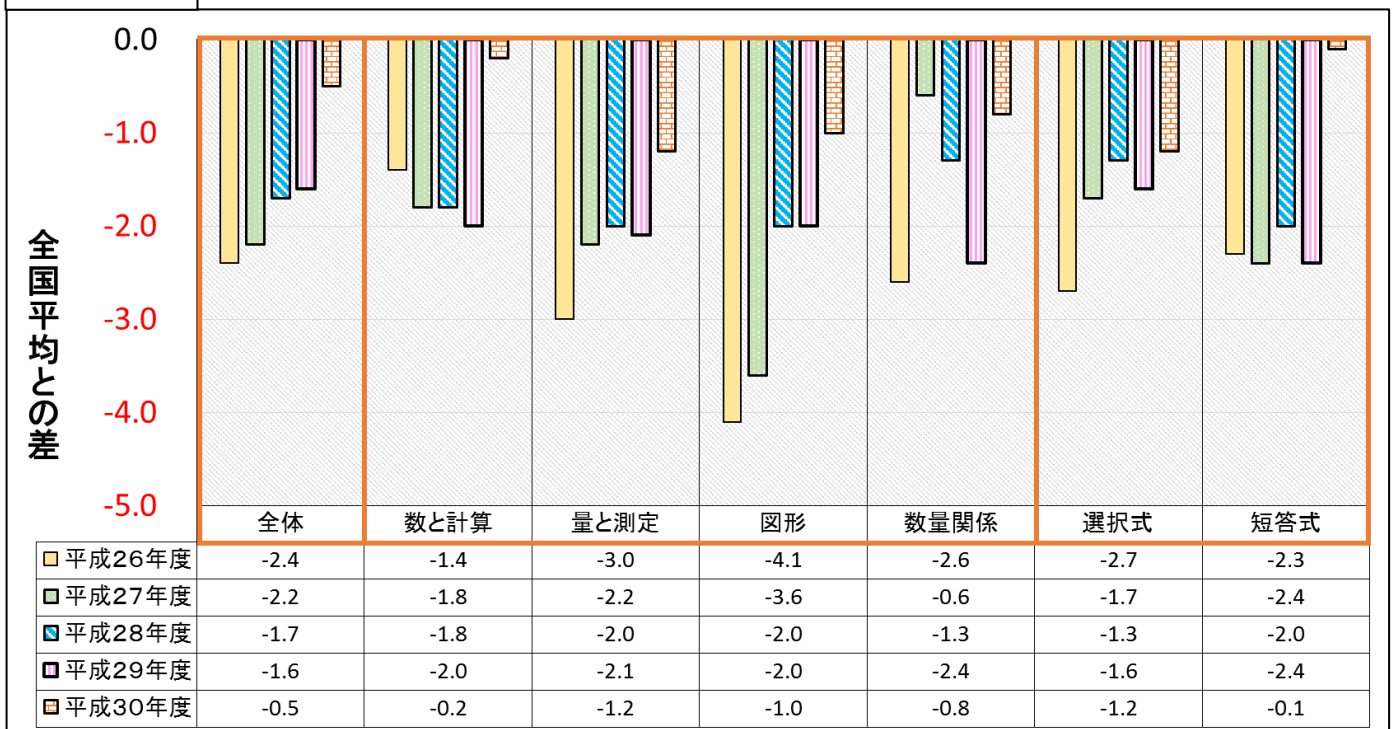
<A問題> (表5) (グラフ18) ※全国平均との比較について

- 全ての領域で改善傾向にある。
- 短答式の問題では、全国平均との差は、ほとんどなくなった。
- 「量と測定」「図形」に関しては、改善傾向であるものの、全国との差が比較的大きい。

表5

小学校算数A		平成26年度			平成27年度			平成28年度			平成29年度			平成30年度		
		鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差
学習指導要領の領域等	全体	75.7	78.1	-2.4	73.0	75.2	-2.2	75.9	77.6	-1.7	77.0	78.6	-1.6	63.0	63.5	-0.5
	数と計算	80.4	81.8	-1.4	78.3	80.1	-1.8	78.7	80.5	-1.8	78.6	80.6	-2.0	62.1	62.3	-0.2
	量と測定	71.8	74.8	-3.0	69.1	71.3	-2.2	75.0	77.0	-2.0	66.7	68.8	-2.1	71.5	72.7	-1.2
	図形	67.7	71.8	-4.1	60.9	64.5	-3.6	76.8	78.8	-2.0	79.1	81.1	-2.0	55.9	56.9	-1.0
	数量関係	78.7	81.3	-2.6	84.3	84.9	-0.6	67.2	68.5	-1.3	77.2	79.6	-2.4	59.3	60.1	-0.8
問題形式	選択式	68.0	70.7	-2.7	68.8	70.5	-1.7	74.5	75.8	-1.3	78.0	79.6	-1.6	60.6	61.8	-1.2
	短答式	82.5	84.8	-2.3	74.9	77.3	-2.4	76.5	78.5	-2.0	75.4	77.8	-2.4	67.7	67.8	-0.1
	記述式															

グラフ 18



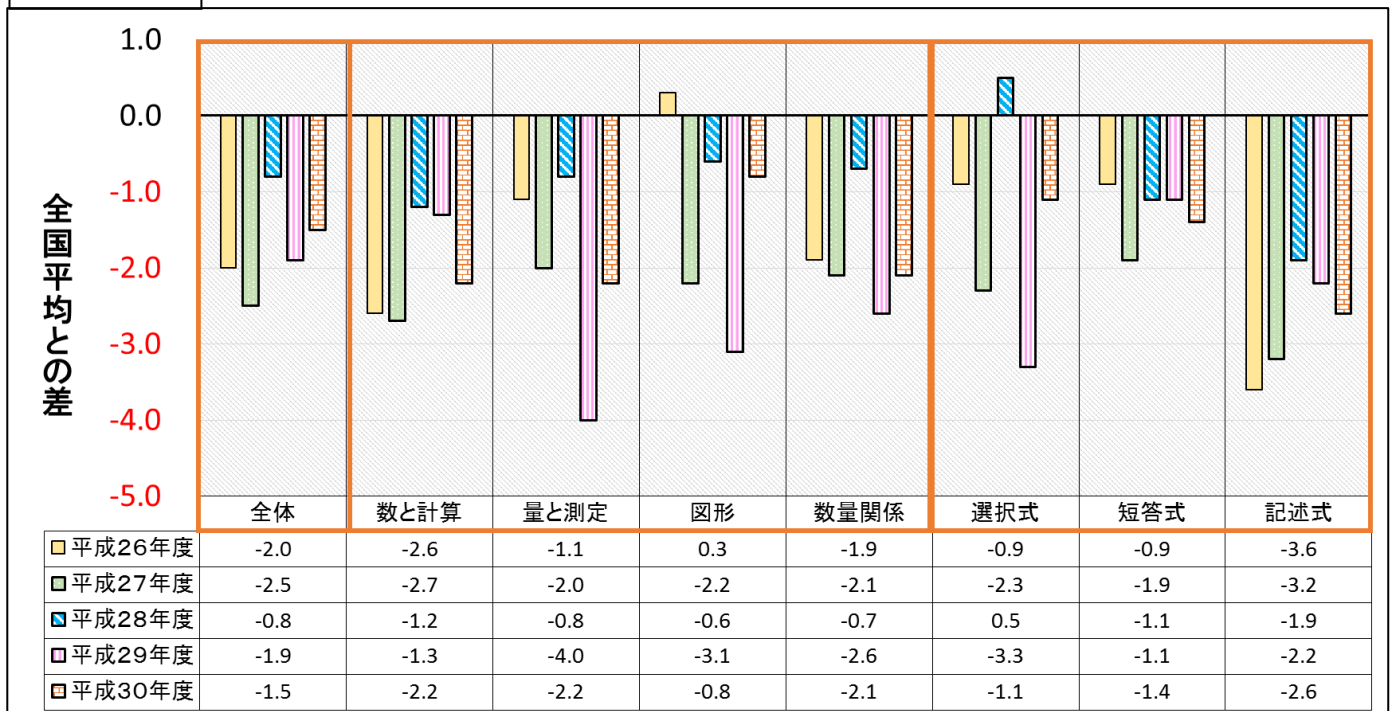
<B問題> (表6) (グラフ19) ※全国平均との比較について

- 「図形」の領域が、改善傾向にある。
- 「数と計算」の領域が下降傾向にあり、全国との差が広がりつつある。
- 記述式の問題が、下降傾向にあり、全国との差が広がりつつある。

表6

小学校算数B		平成26年度			平成27年度			平成28年度			平成29年度			平成30年度		
		鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差
	全体	56.2	58.2	-2.0	42.5	45.0	-2.5	46.4	47.2	-0.8	44.0	45.9	-1.9	50.0	51.5	-1.5
学習指導要領の領域等	数と計算	58.7	61.3	-2.6	39.7	42.4	-2.7	43.2	44.4	-1.2	51.5	52.8	-1.3	56.2	58.4	-2.2
	量と測定	55.4	56.5	-1.1	39.7	41.7	-2.0	42.9	43.7	-0.8	43.0	47.0	-4.0	50.2	52.4	-2.2
	図形	66.0	65.7	0.3	43.4	45.6	-2.2	35.7	36.3	-0.6	10.1	13.2	-3.1	59.1	59.9	-0.8
	数量関係	54.3	56.2	-1.9	40.9	43.0	-2.1	42.2	42.9	-0.7	37.4	40.0	-2.6	43.0	45.1	-2.1
問題形式	選択式	63.8	64.7	-0.9	68.3	70.6	-2.3	57.2	56.7	0.5	50.8	54.1	-3.3	52.9	54.0	-1.1
	短答式	61.3	62.2	-0.9	40.3	42.2	-1.9	65.3	66.4	-1.1	60.6	61.7	-1.1	65.2	66.6	-1.4
	記述式	46.1	49.7	-3.6	29.3	32.5	-3.2	24.3	26.2	-1.9	29.4	31.6	-2.2	41.3	43.9	-2.6

グラフ 19



(3) 小学校 理科

(表7) (グラフ20) ※全国平均との比較について

- 物質領域が改善傾向にある。
- 記述式問題が改善傾向にある。
- 生命領域が昨年度から差が開き、領域内で、最も全国との差が開いている。

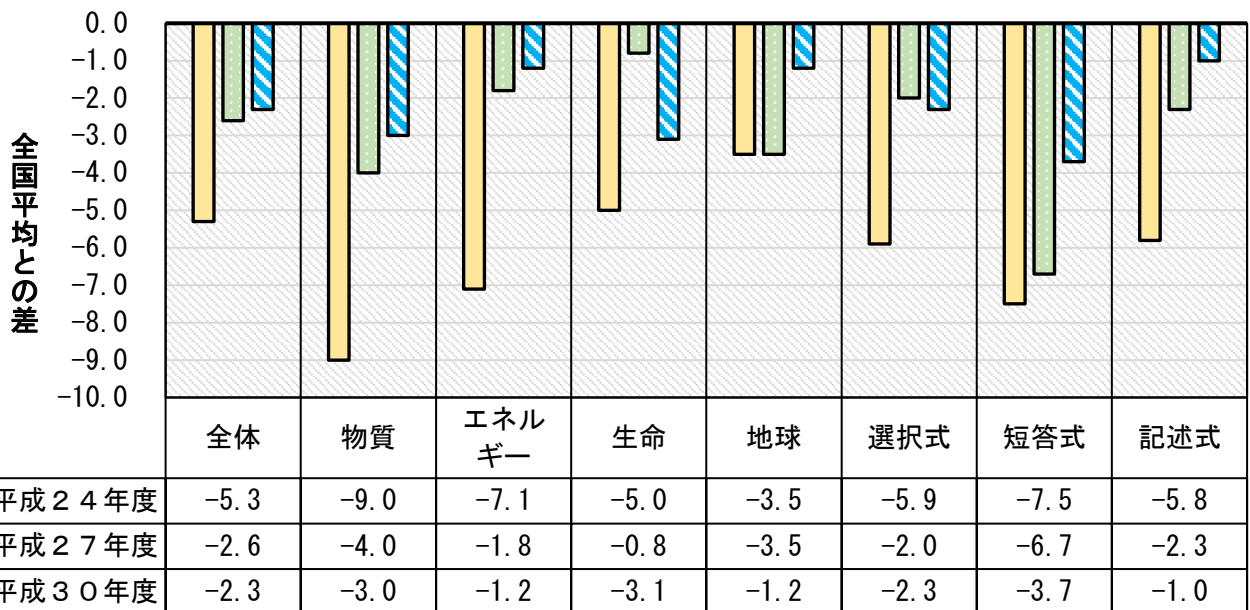
表7

小学校理科		平成24年度			平成27年度			平成30年度		
		鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差
全体	抽出	54.6	60.9	-5.3	58.2	60.8	-2.6	58.0	60.3	-2.3
	希望参加を含む全体	55.6								
学習指導要領の領域等	物質	52.4	61.4	-9.0	53.4	57.4	-4.0	56.8	59.8	-3.0
	エネルギー	52.7	59.8	-7.1	63.8	65.6	-1.8	51.9	53.1	-1.2
	生命	63.6	68.6	-5.0	60.4	61.2	-0.8	70.5	73.6	-3.1
	地球	47.1	50.6	-3.5	54.3	57.8	-3.5	48.3	49.5	-1.2
問題形式	選択式	59.1	65.0	-5.9	60.9	62.9	-2.0	61.5	63.8	-2.3
	短答式	56.4	63.9	-7.5	56.9	63.6	-6.7	75.7	79.4	-3.7
	記述式	28.7	34.5	-5.8	43.0	45.3	-2.3	27.0	28.0	-1.0

※H24年度の学習指導要領の領域等・問題形式の数値は抽出校の数値

グラフ 20

小学校 理科 (H24, 27, 30 経年変化)



※H24年度の学習指導要領の領域等・問題形式の数値は抽出校の数値

(4) 中学校 国語

＜A問題＞（表8）（グラフ21）※全国平均との比較について

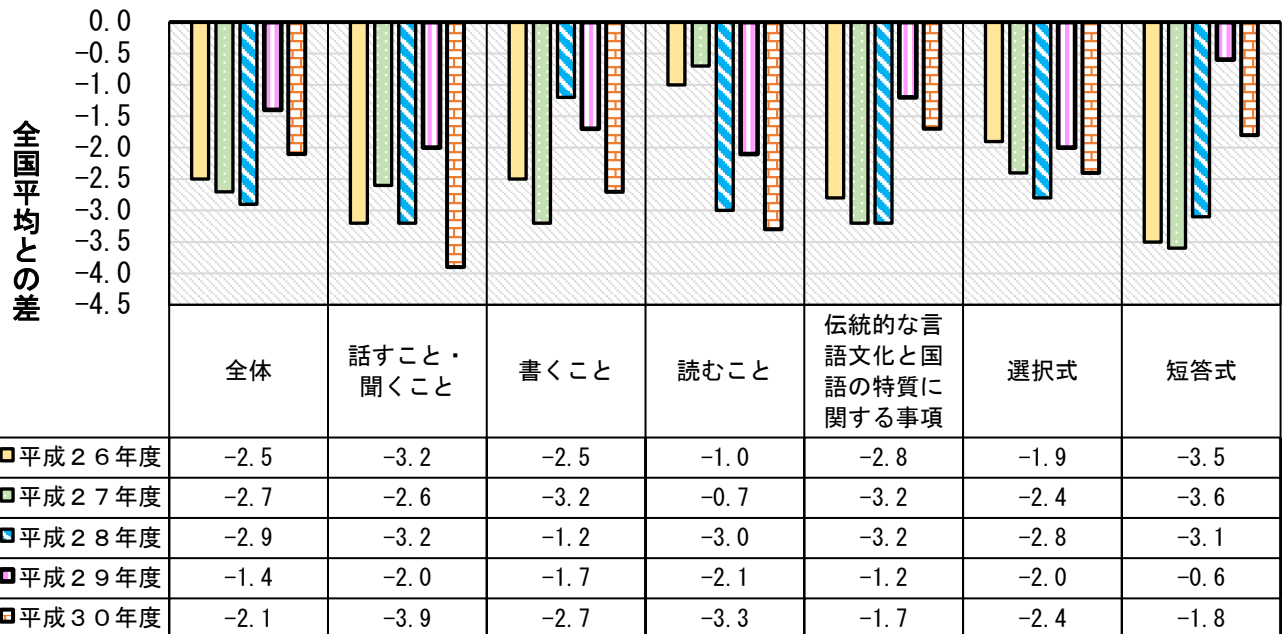
- 話すこと・聞くこと，読むことが，下降傾向であり，ここ5年で最も差が開いた。
- 書くことについて，2年連続下降傾向であり，全国との差が大きく開きつつある。

表8

中学校国語A		平成26年度			平成27年度			平成28年度			平成29年度			平成30年度		
		鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差
学習指導要領の領域等	全体	76.9	79.4	-2.5	73.1	75.8	-2.7	72.7	75.6	-2.9	76.0	77.4	-1.4	74.0	76.1	-2.1
	話すこと・聞くこと	69.1	72.3	-3.2	77.1	79.7	-2.6	75.7	78.9	-3.2	73.4	75.4	-2.0	71.3	75.2	-3.9
	書くこと	80.9	83.4	-2.5	70.4	73.6	-3.2	72.5	73.7	-1.2	84.0	85.7	-1.7	71.2	73.9	-2.7
	読むこと	81.9	82.9	-1.0	85.4	86.1	-0.7	75.6	78.6	-3.0	71.7	73.8	-2.1	73.4	76.7	-3.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.9	78.7	-2.8	69.7	72.9	-3.2	70.7	73.9	-3.2	76.0	77.2	-1.2	74.8	76.5	-1.7
問題形式	選択式	81.3	83.2	-1.9	73.1	75.5	-2.4	70.7	73.5	-2.8	76.5	78.5	-2.0	74.4	76.8	-2.4
	短答式	69.6	73.1	-3.5	73.1	76.7	-3.6	77.4	80.5	-3.1	74.5	75.1	-0.6	72.9	74.7	-1.8
	記述式															

グラフ 21

中学校 国語A (H26～H30 経年変化)



<B問題> (表9) (グラフ22) ※全国平均との比較について

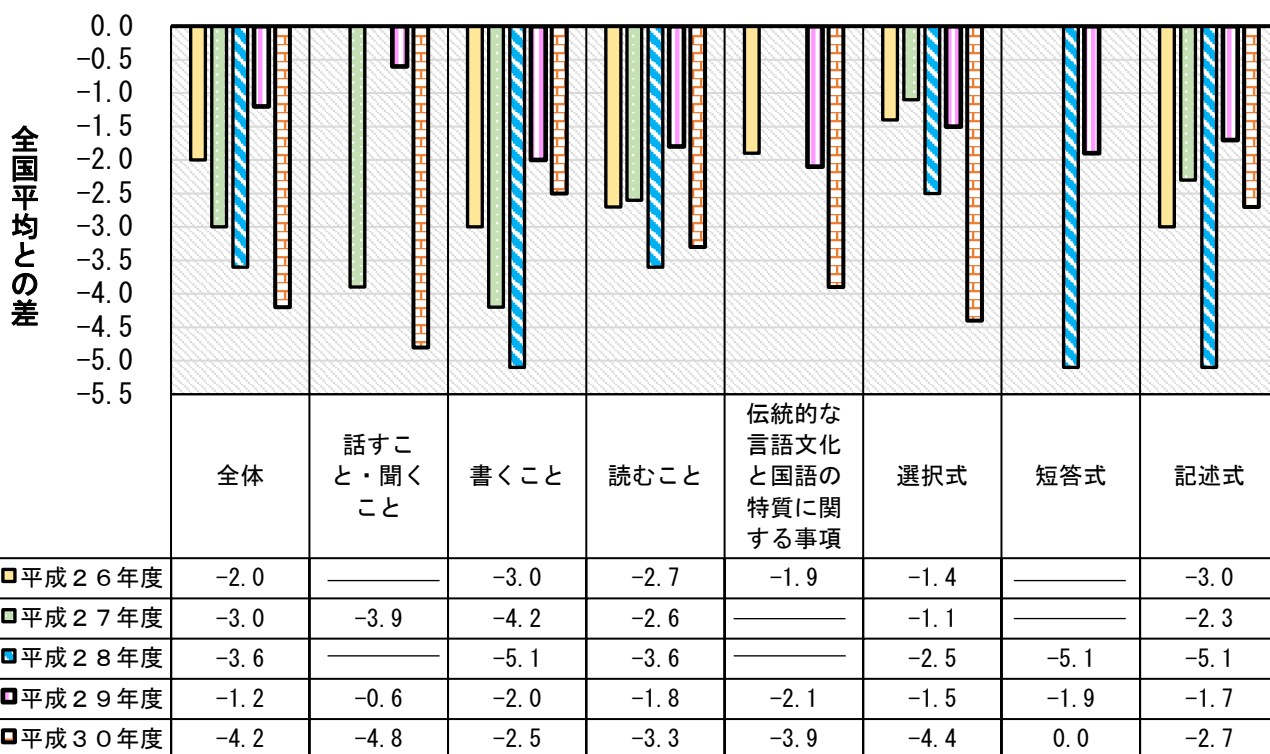
- どの領域についても、昨年度より差が開く結果となった。特に、話すこと・聞くことに関しては、昨年度からの落差が大きい。
- 選択式・記述式ともに昨年度から差が開く結果となった。

表9

中学校国語B		平成26年度			平成27年度			平成28年度			平成29年度			平成30年度		
		鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差
学習指導要領の領域等	全体	49.0	51.0	-2.0	62.8	65.8	-3.0	62.9	66.5	-3.6	71.0	72.2	-1.2	57.0	61.2	-4.2
	話すこと・聞くこと				68.3	72.2	-3.9				71.8	72.4	-0.6	71.8	76.6	-4.8
	書くこと	38.0	41.0	-3.0	32.5	36.7	-4.2	53.2	58.3	-5.1	58.8	60.8	-2.0	28.8	31.3	-2.5
	読むこと	46.5	49.2	-2.7	60.0	62.6	-2.6	62.9	66.5	-3.6	70.3	72.1	-1.8	50.2	53.5	-3.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	54.9	56.8	-1.9							39.3	41.4	-2.1	45.3	49.2	-3.9
問題形式	選択式	54.5	55.9	-1.4	77.9	79.0	-1.1	68.1	70.6	-2.5	78.1	79.6	-1.5	62.3	66.7	-4.4
	短答式							66.0	71.1	-5.1	82.2	84.1	-1.9			
	記述式	38.0	41.0	-3.0	32.5	34.8	-2.3	53.2	58.3	-5.1	54.2	55.9	-1.7	47.6	50.3	-2.7

グラフ 22

中学校 国語B (H26~H30 経年変化)



(5) 中学校 数学

<A問題> (表10) (グラフ23) ※全国平均との比較について

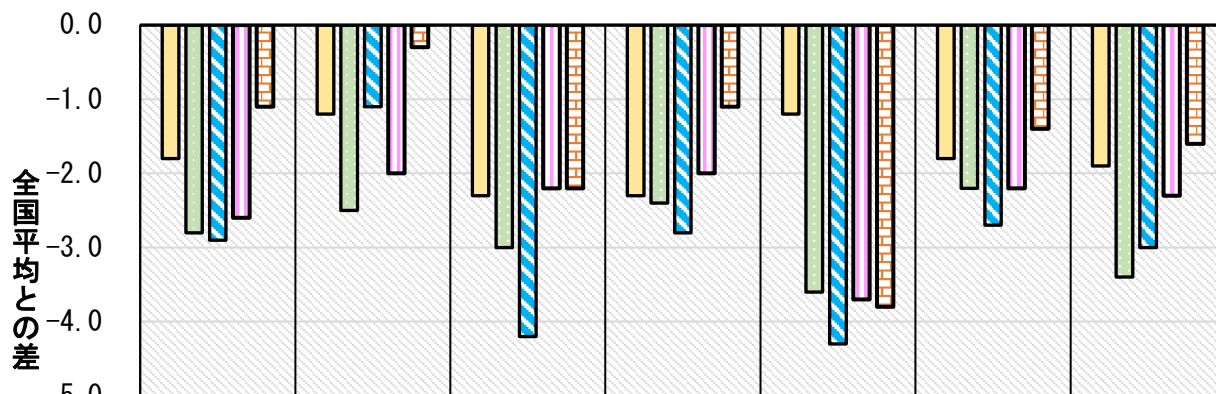
- 数と式, 関数に関しては, 国との差を縮めた。特に, 数と式に関しては, ほぼ差がなくなってきた。
- 選択式, 短答式ともに, ここ5年で最も国との差が縮まった。
- 資料の活用については, 他の領域よりも大きく差が開いている。

表10

中学校数学A		平成26年度			平成27年度			平成28年度			平成29年度			平成30年度		
		鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差
学習指導要領の領域等	全体	65.6	67.4	-1.8	61.6	64.4	-2.8	59.3	62.2	-2.9	62.0	64.6	-2.6	65.0	66.1	-1.1
	数と式	76.2	77.4	-1.2	65.2	67.7	-2.5	64.8	65.9	-1.1	68.4	70.4	-2.0	70.8	71.1	-0.3
	図形	64.1	66.4	-2.3	60.4	63.4	-3.0	62.9	67.1	-4.2	63.8	66.0	-2.2	66.9	69.1	-2.2
	関数	55.7	58.0	-2.3	59.3	61.7	-2.4	49.2	52.0	-2.8	55.4	57.4	-2.0	54.4	55.5	-1.1
問題形式	資料の活用	57.9	59.1	-1.2	59.4	63.0	-3.6	52.2	56.5	-4.3	53.9	57.6	-3.7	59.7	63.5	-3.8
	選択式	62.6	64.4	-1.8	62.4	64.6	-2.2	55.1	57.8	-2.7	64.6	66.8	-2.2	60.1	61.5	-1.4
	短答式	68.5	70.4	-1.9	60.8	64.2	-3.4	61.6	64.6	-3.0	61.1	63.4	-2.3	69.1	70.7	-1.6
	記述式															

グラフ 23

中学校 数学A (H26~H30 経年変化)



	全体	数と式	図形	関数	資料の活用	選択式	短答式
平成26年度	-1.8	-1.2	-2.3	-2.3	-1.2	-1.8	-1.9
平成27年度	-2.8	-2.5	-3.0	-2.4	-3.6	-2.2	-3.4
平成28年度	-2.9	-1.1	-4.2	-2.8	-4.3	-2.7	-3.0
平成29年度	-2.6	-2.0	-2.2	-2.0	-3.7	-2.2	-2.3
平成30年度	-1.1	-0.3	-2.2	-1.1	-3.8	-1.4	-1.6

<B問題> (表11) (グラフ24) ※全国平均との比較について

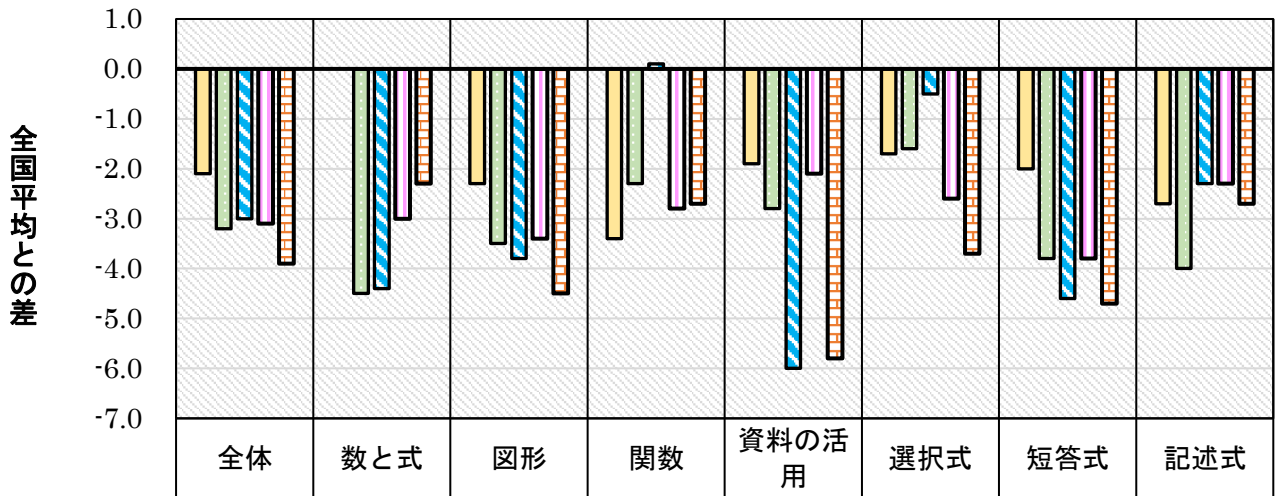
- 数と式の領域は、年々差が縮まってきている。
- 資料の活用の領域が、昨年度は、差を縮めたが、今年度は大きく差が開いた。

表11

中学校数学B		平成26年度			平成27年度			平成28年度			平成29年度			平成30年度		
		鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差
	全体	57.7	59.8	-2.1	38.4	41.6	-3.2	41.1	44.1	-3.0	45.0	48.1	-3.1	43.0	46.9	-3.9
学習指導要領の領域等	数と式	56.9	56.9	0.0	58.7	63.2	-4.5	47.1	51.5	-4.4	43.3	46.3	-3.0	49.1	51.4	-2.3
	図形	56.3	58.6	-2.3	35.5	39.0	-3.5	29.5	33.3	-3.8	43.7	47.1	-3.4	42.2	46.7	-4.5
	関数	61.0	64.4	-3.4	28.4	30.7	-2.3	41.5	41.4	0.1	48.0	50.8	-2.8	50.1	52.8	-2.7
	資料の活用	54.0	55.9	-1.9	28.4	31.2	-2.8	33.3	39.3	-6.0	47.0	49.1	-2.1	32.2	38.0	-5.8
問題形式	選択式	81.5	83.2	-1.7	46.3	47.9	-1.6	40.8	41.3	-0.5	51.2	53.8	-2.6	57.8	61.5	-3.7
	短答式	61.3	63.3	-2.0	43.6	47.4	-3.8	53.2	57.8	-4.6	62.5	66.3	-3.8	51.5	56.2	-4.7
	記述式	42.1	44.8	-2.7	30.8	34.8	-4.0	30.8	33.1	-2.3	19.4	21.7	-2.3	25.2	27.9	-2.7

グラフ 24

中学校 数学B (H26~H30 経年変化)



	全体	数と式	図形	関数	資料の活用	選択式	短答式	記述式
平成26年度	-2.1	0.0	-2.3	-3.4	-1.9	-1.7	-2.0	-2.7
平成27年度	-3.2	-4.5	-3.5	-2.3	-2.8	-1.6	-3.8	-4.0
平成28年度	-3.0	-4.4	-3.8	0.1	-6.0	-0.5	-4.6	-2.3
平成29年度	-3.1	-3.0	-3.4	-2.8	-2.1	-2.6	-3.8	-2.3
平成30年度	-3.9	-2.3	-4.5	-2.7	-5.8	-3.7	-4.7	-2.7

(6) 中学校 理科

(表12) (グラフ25) ※全国平均との比較について

- 地学的領域が改善傾向にある。
- 記述式問題の正答率が全国との差が開いてきている。
- 物理的領域の正答率が下降傾向にある。

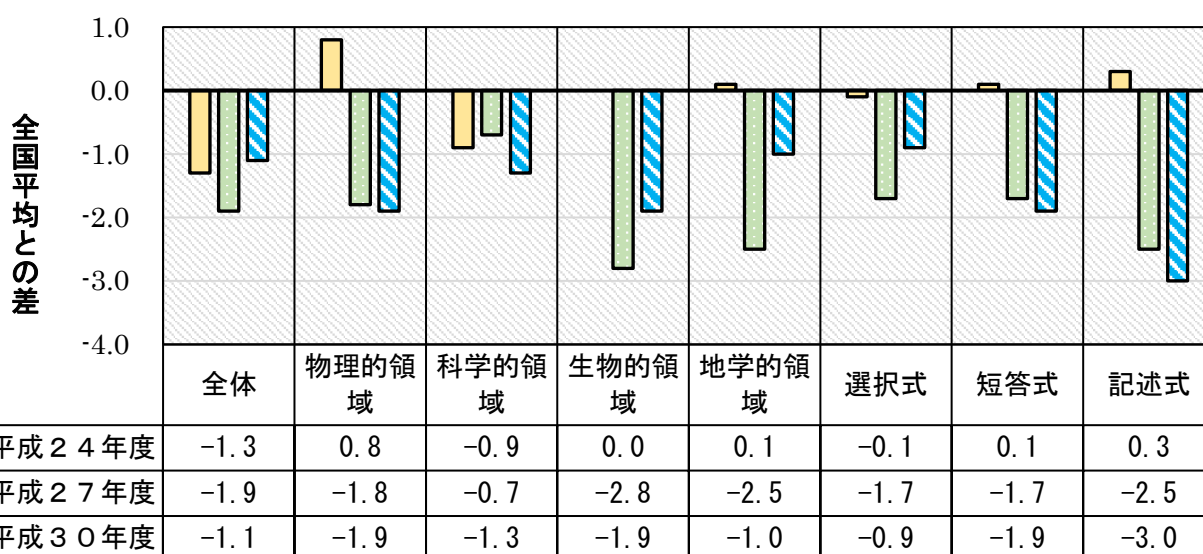
表12

中学校理科		平成24年度			平成27年度			平成30年度		
		抽出	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差
全体		51	51.0		51.1	53.0	-1.9	65.0	66.1	-1.1
	希望参加を含む全体	49.7		-1.3						
学習指導要領の領域等	物理的領域	46.7	45.9	0.8	47.1	48.9	-1.8	72.5	74.4	-1.9
	科学的領域	56	56.9	-0.9	55.5	56.2	-0.7	63.7	65.0	-1.3
	生物的領域	50.7	50.7	0.0	59.4	62.2	-2.8	70.6	72.5	-1.9
	地学的領域	52.1	52.0	0.1	43.9	46.4	-2.5	56.8	57.8	-1.0
問題形式	選択式	60.2	60.3	-0.1	51.4	53.1	-1.7	70.0	70.9	-0.9
	短答式	49.1	49.0	0.1	59.9	61.6	-1.7	68.3	70.2	-1.9
	記述式	32.4	32.1	0.3	43.3	45.8	-2.5	47.1	50.1	-3.0

※H24年度の学習指導要領の領域等・問題形式の数値は抽出校の数値

グラフ25

中学校 理科 (H24, 27, 30 経年変化)



※H24年度の学習指導要領の領域等・問題形式の数値は抽出校の数値

6

各教科に関する質問紙調査の結果

本稿の見方

- * 質問文は、平成 30 年度調査を掲載。平成 28, 29 年度とわずかに異なる文言の質問については、同質問と捉え、データを記載。
- * 肯定的回答とは、選択肢のうち「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」（または、それに類する選択肢）と回答したそれぞれの割合の合計を指す。
- * 課題とみなした質問項目について、各表の平成 30 年度の鈴鹿市の結果を で囲む。
 ※肯定的回答の割合が 70%未満か、70%以上であっても全国平均より 5 ポイント以上下回るものについて課題が大きいとみなす。
 ※質問によっては、実態を把握するにとどめ、課題として取り上げなかった項目もある。
- * 児童・生徒質問紙と学校質問紙の両方の結果を合わせ見て、校種・教科別に課題を記載。

(1) 小学校国語に関する質問紙調査の結果

※肯定的回答の割合が 70%未満か、70%以上であっても全国平均より 5 ポイント以上下回るものについて課題が大きいとみなす。

質問紙調査結果からみえる課題

※特に課題となる質問項目はない

<児童質問紙調査>

※ 質問 58. 59 については、実態を把握するにとどめる

児童質問紙

表 1 3 児童の「調査問題（国語）の解答状況」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H30 質問 番号	質 問	H28 鈴鹿市	H29 鈴鹿市	H30 鈴鹿市	H30 全国 (公立)	H30 全国 平均 との差
58	解答時間は十分でしたか（国語 A） （※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答）	81.8	83.0	77.3	80.0	△
59	解答時間は十分でしたか（国語 B） （※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答）	69.3	63.0	73.0	74.7	△

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

(2) 小学校算数に関する質問紙調査の結果

※肯定的回答の割合が70%未満か、70%以上であっても全国平均より5ポイント以上下回るものについて課題が大きいとみなす。

質問紙調査結果からみえる課題

<児童質問紙調査>

- 算数の勉強が好きと回答している児童の割合
- 算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えること
- ※ 質問 60, 61 については、実態を把握するにとどめる

<学校質問紙調査>

- 前年度までに、発展的な学習の指導を行うこと
- ※ 質問 35, 36, 41 については、実態を把握するにとどめる

児童質問紙

表 1 4 児童の「算数の学習に対する関心・意欲・態度等」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H30 質問 番号	質 問	H28 鈴鹿市	H29 鈴鹿市	H30 鈴鹿市	H30 全国 (公立)	H30 全国 平均 との差
27	算数の勉強は好きですか	67.5	66.3	64.7	64.0	○
28	算数の勉強は大切だと思いますか	91.0	91.3	91.8	92.1	△
29	算数の授業の内容はよく分かりますか	80.8	82.5	82.8	83.4	△
30	算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか	78.0	76.2	75.1	74.3	○
31	算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか	81.8	81.8	78.9	78.4	○
32	算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	66.4	69.2	64.5	64.4	○
33	算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	89.1	89.3	91.3	90.3	○
34	算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	80.6	80.1	78.3	78.5	△
35	算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	80.9	82.4	77.5	80.4	△
36	算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	84.1	86.3	85.6	85.8	△
37	言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありましたか、どのように解答しましたか(※「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答)	72.6	69.7	71.3	70.6	○

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

表 1 5 児童の「調査問題（算数）の解答状況」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

H30 質問 番号	質 問	H28 鈴鹿市	H29 鈴鹿市	H30 鈴鹿市	H30 全国 (公立)	H30 全国 平均 との差
60	解答時間は十分でしたか（算数 A） （※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答）	85.7	84.5	80.7	80.3	○
61	解答時間は十分でしたか（算数 B） （※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答）	54.5	45.3	66.0	66.0	○

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

学校質問紙

表 1 6 「算数科の指導方法」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

H30 質問 番号	質 問	H28 鈴鹿市	H29 鈴鹿市	H30 鈴鹿市	H30 全国 (公立)	H30 全国 平均 との差
35	前年度に、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか （※年間の授業のうち、おおよそ 1/4 以上）	13.4	30.0	36.7	46.9	▲
36	前年度に、習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い、発展的な内容を扱いましたか （※年間の授業のうち、おおよそ 1/4 以上）	6.6	13.4	20.0	37.5	▲
37	前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか	90.0	93.3	96.6	94.3	○
38	前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	43.3	73.3	53.4	64.5	▲
39	前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	56.7	83.4	76.6	78.0	△
40	前年度までに、計算問題などの反復練習をする授業を行いましたか	100	100	93.3	96.7	△
41	前年度までに、教科担任制を実施していましたか	6.7	6.7	0	9.3	▲

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

(3) 小学校理科に関する質問紙調査の結果

※肯定的回答の割合が70%未満か、70%以上であっても全国平均より5ポイント以上下回るものについて課題が大きいとみなす。

質問紙調査結果からみえる課題

<児童質問紙調査>

- 理科の勉強が好きと回答している児童の割合
- 理科の授業の内容理解
- 理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えること
- 理科の授業で、自分の考えや考察をまわりの人に説明したり発表すること
- 理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えること
- 5年生のとき、理科の授業を受けた後に、習ったことに関わることで、もっと知りたいことがでてくること

※ 質問 44, 62 については、実態を把握するにとどめる

<学校質問紙調査>

- 前年度までに、補充的な学習の指導を行うこと
- 前年度までに、発展的な学習の指導を行うこと
- 前年度までに、自ら考えた仮説をもとに観察、実験の計画を立てさせる指導を行うこと
- 前年度までに、理科の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えること
- 前年度までに、理科の指導として、児童に与えた家庭学習の課題（長期休業期間中の課題を除く）について、評価・指導すること

※ 質問 50 については、実態を把握するにとどめる

児童質問紙

表 1 7 児童の「理科の学習に対する関心・意欲・態度等」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H30 質問 番号	質 問	H27 鈴鹿市	H30 鈴鹿市	H30 全国 (公立)	H30 全国 平均 との差
38	理科の勉強は好きですか	82.1	74.1	83.5	▲
39	理科の勉強は大切だと思いますか	85.6	82.0	85.4	△
40	理科の授業の内容はよく分かりますか	87.0	83.5	89.4	▲
41	自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがありますか	83.6	83.6	87.0	△
42	理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	68.1	59.4	64.7	▲
43	理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	73.0	70.6	72.9	△
44	将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか	28.5	23.1	26.1	△

45	理科の授業で、自分の考えや考察をまわりの人に説明したり発表したりしていますか	55.3	51.4	54.5	△
46	理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行いましたか(月1回以上)	87.8	87.7	89.1	△
47	観察や実験を行うことは好きですか	89.4	87.1	89.8	△
48	理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか	73.7	70.8	75.2	△
49	理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか	79.3	78.2	81.8	△
50	理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか	65.8	63.9	68.1	△
52	5年生のとき、理科の授業がおもしろいと思えましたか	—	82.5	87.5	△
53	5年生のとき、理科の授業を受けた後に、習ったことに関わることで、もっと知りたいことができましたか	—	67.1	75.1	▲
54	今、社会のことがらや自然のことがらに、「不思議だな」「おもしろいな」などと思えますか	—	78.9	82.0	△

表18 児童の「調査問題（理科）の解答状況」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

H30 質問 番号	質 問	H27 鈴鹿市	H30 鈴鹿市	H30 全国 (公立)	H30 全国 平均 との差
51	今回の理科の問題について、解答を文章などで書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか（全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した）	76.6	75.1	77.3	△
62	解答時間は十分でしたか（理科） （※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答）	76.1	86.7	90.1	△

※全国平均との差 ▲<-5≦△<0≦○<+5≦◎

学校質問紙

表19 「理科の指導方法」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

H30 質問 番号	質 問	H27 鈴鹿市	H30 鈴鹿市	H30 全国 (公立)	H30 全国 平均 との差
42	前年度に、児童の好奇心や意欲が喚起されるよう、工夫していましたか	—	96.7	96.1	○
43	前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか	36.7	43.3	66.5	▲
44	前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	36.7	33.3	56.5	▲
45	前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	70.0	83.3	85.7	△
46	前年度までに、児童が科学的な体験や自然体験をする授業を行いましたか	80.0	86.7	88.1	△
47	前年度までに、自ら考えた仮説をもとに観察、実験の計画を立てさせる指導を行いましたか	83.3	80.0	86.5	▲
48	前年度までに、観察や実験の結果を整理し考察する指導を行いましたか	96.7	93.4	96.0	△

49	前年度までに、観察や実験におけるカードやノートへの記録・記述の方法に関する指導を行いましたか	90.0	96.6	94.4	○
50	前年度に、観察実験補助員が配置されていましたか	20.0	36.7	14.7	◎
51	前年度に、理科室で児童が観察や実験をする授業を1クラス当たりどの程度行いましたか（※週1回以上）	83.3	96.7	97.4	△
69	前年度までに、理科の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えましたか	—	16.7	45.7	▲
70	前年度までに、理科の指導として、長期休業期間中に自由研究や課題研究などの家庭学習の課題を与えましたか	—	93.3	86.0	◎
71	前年度までに、理科の指導として、児童に与えた家庭学習の課題（長期休業期間中の課題を除く）について、評価・指導しましたか	—	63.4	74.1	▲

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

(4) 中学校国語に関する質問紙調査の結果

※肯定的回答の割合が70%未満か、70%以上であっても全国平均より5ポイント以上下回るものについて課題が大きいとみなす。

質問紙調査結果からみえる課題

※ 特に課題となる質問項目はない

<生徒質問紙調査>

※ 質問55, 56については、実態を把握するにとどめる

生徒質問紙

表20 生徒の「調査問題（国語）の解答状況」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

H30 質問 番号	質 問	H28 鈴鹿市	H29 鈴鹿市	H30 鈴鹿市	H30 全国 (公立)	H30 全国 平均 との差
55	解答時間は十分でしたか（国語A） （※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答）	91.5	94.3	90.8	92.1	△
56	解答時間は十分でしたか（国語B） （※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答）	84.8	86.5	82.0	82.2	△

※全国平均との差 ▲<-5△<0≤○<+5≤◎

(5) 中学校数学に関する質問紙調査の結果

※肯定的回答の割合が70%未満か、70%以上であっても全国平均より5ポイント以上下回るものについて課題が大きいとみなす。

質問紙調査結果からみえる課題

<生徒質問紙調査>

- 数学の勉強が好きと回答している生徒の割合
 - 数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えること
 - 数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えること
 - 数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えること
 - 数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしていること
 - 言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題で、最後まで解答を書こうと努力すること
- ※ 質問 57, 58 については、実態を把握するにとどめる

<学校質問紙調査>

- 前年度までに、発展的な学習の指導を行うこと
- ※ 質問 34, 35 については、実態を把握するにとどめる

生徒質問紙

表 2 1 生徒の「数学の学習に対する関心・意欲・態度等」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H30 質問 番号	質 問	H28 鈴鹿市	H29 鈴鹿市	H30 鈴鹿市	H30 全国 (公立)	H30 全国 平均 との差
27	数学の勉強は好きですか	54.5	55.4	50.8	53.9	△
28	数学の勉強は大切だと思いますか	79.9	80.4	81.2	83.6	△
29	数学の授業の内容はよく分かりますか	71.7	69.0	71.3	71.0	○
30	数学ができるようになりたいと思いますか	90.2	91.4	91.8	92.5	△
31	数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか	71.4	75.2	68.3	70.3	△
32	数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	42.0	43.8	35.0	38.7	△
33	数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	73.1	72.6	72.8	72.9	△
34	数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	69.6	73.3	67.7	69.2	△
35	数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしていますか	70.4	71.3	66.7	70.4	△
36	数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	81.9	86.0	83.2	80.6	○
37	言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありましたか、どのように解答しましたか(※「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答)	51.9	57.3	54.5	55.5	△

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

表 2 2 生徒の「調査問題（数学）の解答状況」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

H30 質問 番号	質 問	H28 鈴鹿市	H29 鈴鹿市	H30 鈴鹿市	H30 全国 (公立)	H30 全国 平均 との差
57	解答時間は十分でしたか（数学 A） （※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答）	90.1	90.5	92.4	91.5	○
58	解答時間は十分でしたか（数学 B） （※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答）	69.2	77.7	76.3	73.5	○

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

学校質問紙

表 2 3 「数学科の指導方法」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

H30 質問 番号	質 問	H28 鈴鹿市	H29 鈴鹿市	H30 鈴鹿市	H30 全国 (公立)	H30 全国 平均 との差
34	前年度に、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか （※年間の授業のうち、おおよそ 1/4 以上）	10.0	30.0	10.0	38.1	▲
35	前年度に、習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い、発展的な内容を扱いましたか （※年間の授業のうち、おおよそ 1/4 以上）	10.0	20.0	10.0	32.0	▲
36	前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか	80.0	90.0	100	91.4	◎
37	前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	60.0	60.0	60.0	66.5	▲
38	前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	70.0	60.0	80.0	72.1	◎
39	前年度までに、計算問題などの反復練習をする授業を行いましたか	80.0	90.0	100	96.2	○
64	前年度までに、数学の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えましたか	100	100	90.0	94.5	△
65	前年度までに、数学の指導として、生徒に与えた家庭学習の課題（長期休業期間中の課題を除く）について、評価・指導しましたか	100	100	100	94.5	◎

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

(6) 中学校理科に関する質問紙調査の結果

※肯定的回答の割合が 70%未満か、70%以上であっても全国平均より 5 ポイント以上下回るものについて課題が大きいとみなす。

質問紙調査結果からみえる課題

<生徒質問紙調査>

- 理科の勉強が好きと回答している生徒の割合
 - 理科の勉強は大切だと思えること
 - 理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えること
 - 理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思えること
 - 理科の授業で、自分の考えや考察をまわりの人に説明したり、発表すること
 - 理科の授業で、理科室で観察や実験を行う頻度(月 1 回以上)
 - 理科の授業で、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てること
 - 理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察すること
 - 理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えること
 - 解答を文章などで書く問題を最後まで解答を書こうと努力すること
- ※ 質問 44, 59 については、実態を把握するにとどめる

<学校質問紙調査>

- 自ら考えた仮説をもとに観察、実験の計画を立てさせる指導を行うこと
 - 前年度までに、家庭学習の課題(宿題)を与えること
- ※ 質問 48 については、実態を把握するにとどめる

生徒質問紙

表 2 4 生徒の「理科の学習に対する関心・意欲・態度等」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H30 質問 番号	質 問	H27 鈴鹿市	H30 鈴鹿市	H30 全国 (公立)	H30 全国 平均 との差
38	理科の勉強は好きですか	61.8	63.9	62.9	○
39	理科の勉強は大切だと思いますか	69.0	67.2	70.6	△
40	理科の授業の内容はよく分かりますか	68.2	72.0	70.0	○
41	自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがありますか	72.8	74.7	77.6	△
42	理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	46.8	41.5	45.4	△
43	理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	55.7	52.7	55.7	△
44	将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思えますか	24.7	22.2	22.2	○
45	理科の授業で、自分の考えや考察をまわりの人に説明したり発表したりしていますか	44.4	43.4	41.4	○
46	理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行いましたか(月 1 回以上)	67.2	75.6	87.1	▲

47	観察や実験を行うことは好きですか	78.8	79.4	82.1	△
48	理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか	53.1	55.0	58.5	△
49	理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察していますか	63.4	69.7	72.3	△
50	理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか	52.4	53.1	59.0	▲

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

表 2 5 生徒の「調査問題（理科）の解答状況」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H30 質問 番号	質 問	H27 鈴鹿市	H30 鈴鹿市	H30 全国 (公立)	H30 全国 平均 との差
51	今回の理科の問題について、解答を文章などで書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか（※「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答）	49.2	60.7	62.8	△
59	解答時間は十分でしたか（理科） （※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答）	84.4	92.1	92.3	△

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

学校質問紙

表 2 6 「理科の指導方法」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H30 質問 番号	質 問	H27 鈴鹿市	H30 鈴鹿市	H30 全国 (公立)	H30 全国 平均 との差
40	前年度に、生徒の好奇心や意欲が喚起されるよう、工夫していましたか	—	100	97.7	○
41	前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか	60.0	100	85.2	◎
42	前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	60.0	90.0	69.0	◎
43	前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	90.0	90.0	90.7	△
44	生徒が科学的な体験や自然体験をする授業を行いましたか	80.0	90.0	82.0	◎
45	自ら考えた仮説をもとに観察、実験の計画を立てさせる指導を行いましたか	50.0	40.0	73.0	▲
46	前年度までに、観察や実験の結果を分析し解釈する指導を行いましたか	100	100	94.3	◎
47	前年度までに、観察や実験のレポートの作成方法に関する指導を行いましたか	80.0	80.0	81.2	△
48	前年度に、観察実験補助員が配置されていましたか	0	0	4.4	△
49	前年度に、理科室で生徒が観察や実験をする授業を1クラス当たりどの程度行いましたか(月1回以上)	100	100	97.7	○
66	前年度までに、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか	50.0	70.0	76.6	▲
67	前年度までに、長期休業期間中に自由研究などの家庭学習の課題を与えましたか	90.0	80.0	81.1	△
68	前年度までに、生徒に与えた家庭学習の課題(長期休業の課題除く)について、評価・指導しましたか	80.0	100	89.0	◎

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎